

さい  
臍ヘルニア（でべそ）

臍ヘルニアは赤ちゃんの5人から10人に1人の割合で、生後1か月から3か月の間に発症し、最大3cm位になります。生後4か月位からだんだん小さくなってきて、1歳頃までに95%が治ります。

臍ヘルニアの原因は臍の緒が取れた跡がうまく塞がらず、そこから腸が出て臍が膨らんでくるのです。すごく稀に臍が出っ張り、赤ちゃんの機嫌が悪くなり、臍の部分が硬くなったり赤く膨らんだりすると腸が腐ってしまうことがあるので、すぐに外科を受診してください。

1歳を過ぎると臍ヘルニアは自然に治ることはありません。そこで2歳頃に小児外科か形成外科で臍ヘルニアを閉じる手術をしたり、臍ヘルニアは閉じたけれども臍のところの皮膚があまり形の悪い臍をきれいな臍にする手術をします。

臍ヘルニアは何もせずに1歳までは経過観察をするのが主流ですが、最近スポンジ圧迫法という新しい方法が開発され、出た臍をスポンジで押さえてフィルムで覆います。フィルムが今までのテープと違い貼っておいても皮膚がかぶれにくいのです。

この方法の利点は治療を始めた時より臍ヘルニアが大きくなることと、早く治癒することです。欠点は放置しているより手間がかかることです。ただし、この方法でも5%は治らずに手術になります。臍ヘルニアを治すのに赤ちゃんに何かしてあげたいと思うお母さんには良い方法かもしれません。



恵庭市保健センター

医療顧問 南（小児科医）